

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200231		
法人名	株式会社 ダブリュー		
事業所名	ういるグループホーム山城		
所在地	三重県四日市市山城町字穴田1148-1		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町提出日	令和5年3月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2490200231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2490200231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 1 月 13 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中、筋力低下や運動不足解消の為、室内で音楽に合わせてフロアを歩いたり、毎日のラジオ体操・介護予防体操を欠かさずしています。そして主治医とも連絡相談し健康管理に気を付けています。入居者様の笑顔が常に見られるように、職員の出勤時には必ず、お一人お一人にお名前のお声掛けをし、ご挨拶から始まります。各入居者様の出来る事を維持する為に職員がサポート出来るような環境作りを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三岐線山城駅から東へ徒歩3分の便利の良い場所にある平屋の事業所である。コロナ禍で地域との交流・外出・外食の制限がある中、季節感のある夏祭りやクリスマス会等のイベントや行事を実施し、イベント食・手作りおやつ・外注のおにぎり・ピザ・お寿司でピクニックや外食気分を楽しんでいる。24時間対応の協力医との連携がとて良く、利用者や家族は健康管理や医療面では安心である。利用者は食事の準備や後片付け、洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除・散歩・レクリエーション・創作活動等自分のペースで生活をしている。管理者・職員は、自治会長・民生委員・行政・医師等の関係者や利用者家族の理解と協力により、利用者が豊かで安心して生活出来る事業所を目指して支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の「ありのままにその人らしく」をモットーに認知症疾患を抱えてもその人らしさを大切に過ごせるよう個々を重視した支援を行っている。	会社理念の「ありのままにその人らしく」がロビーの職員が目につきやすい場所に掲示してある。管理者・職員は理念を共有しながら利用者に寄り添い、家庭的で温かい事業所を目指して支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの関係上、施設外でのイベントは自粛している為、交流は少ない。施設内での季節に応じた行事を行っている。	コロナ禍前は地域行事に積極的に参加していたが、コロナ禍で地域との交流は制限している。時々、山城町公民館での屋外行事等には参加しており地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の際、行政機関や地域と連携し情報共有し相談などの窓口になれるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの関係上、文書報告による開催となっております。ご意見についても郵送にて返信頂き、意見交流を行っている。	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ない為、2か月毎に、運営推進会議等議事録兼報告書を各運営推進委員と家族の代表に返信用封筒を同封して送付している。各委員からの意見や提案を事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や包括、在介の方々とも福祉事業の取り組みの理解と協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市介護保険課・地域包括支援センター・下野在宅介護支援センター担当職員と、電話・文書等で意見や提案をいただき常に情報交換を行っている。市介護サービス相談員が訪問をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討会を3か月に1回実施している。その際に、身体拘束について虐待の種類についての研修も実施している。	年に4回、身体拘束適正化委員会を開催して、全職員で身体拘束ゼロの支援に取り組んでいる。職員会議で身体拘束についての研修を実施しており、言葉による拘束についても話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修等により周知している。職員間で虐待行為を見逃さないように努め、連携と報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの関係上、外部の研修の参加は希薄となっているが、今後リモート研修など参加の機会を作っていけるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、利用者・家族に理解して頂き、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの関係上、ご家族の施設来訪は少ない状態であるが、日々の生活の様子などは、電話や通信などにて報告し、玄関・テラスの窓越しに面会している。	家族へは毎月発行の「ういる山城通信」や電話等で利用者の状況報告をしている。また、面会時や電話で家族の意見や要望を聞き、事業所の運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を1か月に1回実施しており、職員の意見を吸い上げ、職員皆で一緒に考えていける体制の環境作りに努めている。	日常の会話や職員会議で職員の意見を聞くようにしている。管理者は話し易い雰囲気づくりを心掛け、職員の意見や提案を聞き事業所の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、思いや考えを聞ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の度に、社内研修を行っている。外部研修については、コロナウイルスの関係上、少ない状況ではあるがリモート研修など参加出来るよう努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在介や包括、他の介護施設の管理者との交流、意見交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族により要望を聞き取り、精神面でも安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族により要望を聞き取り、関係性を築けるように努め、本人、ご家族共に精神面でも安心して生活して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントで本人の状態を把握して、生活環境等の情報収集を行い支援へ繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や洗濯、掃除などを職員や他入居者と一緒に行うことにより、暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性等を配慮しつつ、協力して頂ける事は依頼している。報告、連絡、相談を密に行い共に支えていける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの関係上、本人の馴染みの方や、場所との関係性を理解し来設や外出を通じて関係性の継続の支援を行っている。	一週間ごとに家族と手紙のやり取りをしている利用者がいる。回想法により利用者との会話から思い出話を聞いて、馴染みの場所や人との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個人の意思を尊重しながら、生活リハビリやレクリエーション、催事等を行っている。利用者が孤立することが無いように、職員が交流が持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の希望・意思の把握に努めている。困難な場合は本人の表情や行動を観察、推測し支援するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意思の把握に努めている。困難な場合は本人の表情や行動を観察、推測し支援するよう努めている。	利用者一人ひとりに、必ず一回は声掛けをするようにして、日常の会話から利用者の思いや意向を聞くようにしている。把握が困難な利用者は表情や仕草、行動から思いや意向を把握し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から過去の暮らしや生活歴、これまでのサービス利用の経緯等を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の一日の暮らし方を大切にしながら、言葉や表情を観察し小さな変化も職員間で共有して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関と連携し、相談しながら得た意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月の職員会議で利用者のカンファレンスを実施している。6カ月毎にモニタリングを実施し、家族・医師・担当職員の意見を参考に計画の見直しを行い、半年毎に介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を表を作成し、職員間で情報共有を行い細かな申し送りを徹底してケアの実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への受診対応を行っている。訪問理容を受け入れ必要なニーズに応えるよう努めている。その時のニーズに合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係上、地域イベントもない状態である為、参加は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療関係の協力を得ている。月2回の往診、夜間、緊急時の対応をして頂き、スムーズな医療を受けられる体制作りが出来ている。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療がある。24時間対応の協力医で、夜間・緊急時の対応が可能である。また、同法人の他のグループホームの看護師の協力体制が整っており、他科の診療は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関にて、必要に応じて訪問看護を受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療情報は在宅医療機関に行って頂き、日々の過ごし方、支援内容については施設側から情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期状態になった場合、本人、家族、主治医などと話し合い、希望に沿った支援方法を共に考えられるよう努めている。	契約時に看取りに関する説明書で利用者と家族に説明をして、重度化した場合の同意書を交している。重度化した場合は、利用者家族・職員・協力医と相談し、連携を取りながら支援をしている。11月に1名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて勉強会の実施を行ったり、避難訓練の実施力を身につけられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを活用し、地域との協力体制を築いて行けるように努めている。	年3回、避難場所への避難訓練、夜間火災想定訓練、消火・通報訓練等を実施している。災害時の地域との協力体制について、自治会と書類確認が出来ている。水・食料の備蓄、手動発電機等防災機器が設置してある。	いつ発生するかわからない災害に備え、職員の火災・地震・水害に対する防災意識向上のため、職員会議等で災害発生時の机上訓練の実施に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した丁寧な言葉かけを心掛け、何より心穏やかに過ごして頂けるよう心掛けている。	呼称はさん付けで呼んでいる。同姓介助を基本としており、トイレ使用時は必ずドアを閉めるようにしている。入浴介助時やトイレ誘導時は丁寧な声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出し、自己決定出来る個別ケアを心掛けている。利用者自らの意思を尊重する事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一人一人の生活リズムに合わせて支援している。職員からの無理強いにならないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や好みに合わせて、身だしなみを整えお洒落が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節が感じられるような旬な食材を提供できるような食レクやおやつ作りなどを行っている入居者の個々の能力に合わせた下準備や後かたづけを一緒に行っている。	業者の献立で業者発注の食材で、職員が調理をしている。食事の準備や後片付け、食器洗いを手伝える利用者がいる。季節感のある手作り食や、ピザやお寿司を外注し外食気分を味わっている。手作りケーキや手作りおやつも利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者による栄養バランス、カロリー計算された食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分に来ないことは介助を行い、補正に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表、排泄チェック表を活用してトイレ誘導を行っている。特に介助を必要な方に関しては自尊心を傷つけないように声掛けなどの配慮をしている。	利用者全員がリハビリパンツを使用している。自立排泄は4名で、車いす利用者は夜間のみパットで対応をしている。ポータブルトイレ使用は1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後と10時と15時に水分摂取を行っており、1日で1000mlを目標にしている。必要に応じて好みのものを提供したり、体操・歩行訓練などを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴でプライバシーに配慮している。入浴は週2回実施している。湯船の湯を個々に入れ替え清潔を心がけている。体調やその時々に合わせて個別対応している。	週2回午前中の中の入浴で、入浴ごとに湯換えを行っている。全国各地の名湯入浴剤を使用して温泉気分を味わったり、季節感のあるしょうぶ湯・柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意思を尊重して休息(昼寝)して頂いたり、夜間も安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は事務所に保管しており、職員は常に確認できる環境であり、薬変持には申し送りにて周知対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に出ることも好きな事をして頂けるように支援している。塗り絵や折り紙、調理の好きな方は食事作りやおやつ作りなど、入居者さんに合わせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの関係上、車での外出や買い物外出を自粛しておりますが、天気の良い日は近隣へ散歩へ行ったりして過ごしている。	避難訓練を兼ねて、山城公園へ桜を見に行った。ひまわり畑・コスモス畑への見学、山城駅・朝明川堤防への散歩、事業所周辺の散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は行っていない。場合に応じて本人・家族等に相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行っているが、職員からご家族に連絡を取る場合が殆どである。手紙のやり取りもご家族等を通して行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく過ごせるよう施設内の清潔保持に努めている。又制作物を共に作る事により季節感を演出している。	リビング兼食堂は広くて明るくゆったりと寛げる共用空間で、ソファが設置してあり団らんの間となっている。廊下に利用者と職員が作成した作品が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人に合わせた席の配置を工夫している。又、一人でゆっくり過ごせるような共用スペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、収納する物、家電等は使い慣れたもの、好みの物をお持ち込み頂いている。	ベット・エアコン・物入れが設置してあり、使い慣れた家具やテレビ、ラジオを使用している。換気も良く、清潔で整理整頓された居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に出来ることをして頂き、安全な環境作りを行っている。自立度に合わせた介助を心掛けている。		